

総合工学委員会・機械工学委員会合同
工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会（第26期・第5回）
議事要旨

1. 日 時 令和7年2月16日（日）10:00～12:20

2. 会 場
オンライン（ZOOM）

3. 出席委員（敬称略）

越塚 誠一、宮崎 恵子、遠藤 薫、大倉 典子、小野 恭子、鎌田 実、
上條 正義、柴山 悦哉、庄司 裕子、丹下 健、辻 佳子、野口 和彦、
平尾 雅彦、松尾 亜紀子、宮崎 久美子、持丸 正明、岸田 伸幸、澁谷 忠弘

4. 配布資料

資料1-1 第26期・第3回議事要旨

資料1-2 第26期・第4回議事要旨

資料2-1 安全工学シンポジウム2025実行委員会報告

資料2-2 安全工学シンポジウム 分科会提案OSおよびPD

資料3-1 工学システムに対する安心感等検討小委員会活動報告

資料3-2 変化する技術・社会における工学システムの安全とリスク検討小委員会活動報告および今後の予定

資料3-3 老朽及び遺棄化学兵器の廃棄に係るリスク評価とリスク管理に関する検討小委員会活動報告および今後の予定

資料3-4 カーボンニュートラル施策推進のためのリスク検討フレーム構築について

資料4 日本学術会議主催学術フォーラム「循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行」

資料5-1 意思の表出の申出書（案）「先進技術システムのリスクアセスメントの構造について（仮称）」

資料5-2 意思の表出の申出書（案）「老朽・遺棄化学兵器廃棄にかかる課題とリスク管理に関する今後の在り方」

資料5-3 意思の表出の申出書ひな形

5. 議題

1) 前回議事要旨確認

第3回、第4回（メール審議）議事要旨を確認した。

2) 安全工学シンポジウムについて

資料 2-1 に基づき、辻委員長から、安全工学シンポジウム 2025 開催の概要が報告された。幹事学会に提出する講演会、シンポジウム等主催提案書は委員長一任とすることが承認された。

資料 2-2 に基づき、本分科会で提案した OS および PD に関する準備状況が各担当委員から行われた。

3) 各小委員会等報告

資料 3-1 に基づき、庄司委員から、「工学システムに対する安心感等検討小委員会」の報告が行われた。

資料 3-2 に基づき、野口委員から、「変化する技術・社会における工学システムの安全とリスク検討小委員会」の報告が行われた。

資料 3-3 に基づき、小野委員から、「老朽及び遺棄化学兵器の廃棄に係るリスク評価とリスク管理に関する検討小委員会」の報告が行われた。

資料 3-4 に基づき、平尾委員から、「カーボンニュートラル施策推進のためのリスク検討フレーム構築について」の報告が行われた。

4) 第 26 期カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連絡会議について

辻委員長より、連絡会議参画の意向調査について説明があり、以下の 3 つの組織で参画することが承認された。また、担当者間で連携をとって参画することが確認された。

① 分科会（辻委員長）

② 工学システムに対する安心感等検討小委員会（大倉委員）

③ 変化する技術・社会における工学システムの安全とリスク検討小委員会（野口委員）

資料 4 に基づき、辻委員長より、本分科会が関係している学術フォーラムの紹介があり、都合がつく委員の参加が要請された。

5) 第 26 期意思の表出について

資料 5-1 に基づき、野口委員より、意思の表出（案）「先進技術システムのリスクアセスメントの構造について（仮称）」について説明があり、「報告」を目指して、ブラッシュアップしていくことが確認された。

資料 5-2 に基づき、小野委員より、意思の表出（案）「老朽・遺棄化学兵器廃棄にかかる課題とリスク管理に関する今後の在り方」について説明があり、目次案が提示された。岸田委員からも補足説明があり、「見解」等を目指して、ブラッシュアップしていくことが確認された。「提言」を目指すのであれば、より幅広い連携が必要であることが確認され、今後の検討課題となった。

辻委員長より、「カーボンニュートラル施策推進のためのリスク検討フレーム構築

について」も意思の表出を検討するなら、担当で申出書の作成を急ぐことが要請された。

宮崎副委員長から、意思の表出の全体スケジュール、および、アウトリーチ活動の方法と時期が重要であることが説明され、全員で共有・確認した。なお、いずれの意思の表出も、企画段階から、分科会での議論の時間を十分にとることが重要であることが、辻委員長より説明された。

6) その他

特になし

以上